



## レナフォだより 第5号 (2011年12月)

〒154-0023 東京都世田谷区若林5-21-1  
NPO 法人 国際ふるさとの森づくり協会

### いのちを守る森の防潮堤

#### 東日本大震災後の思考

東日本大震災は私達の思考、行動様式に大きな影響を与えたように思います。それまでは、災害なんて自分に関係ないと思っていたが、3月11日以降は、自分もいつ被災するか分からないと感じるようになりました。電気や燃料はあって当たり前と思っていたら、一瞬にして崩れ去る危ういシステムの上に成り立っていることを知りました。

震災後私達は改めて自分の足元を見つめ直しました。肉親を亡くし、家族が別居し、今なお自宅に戻れない被災者を思うにつけ、家族そろって夕食を共に出来ることを稀有な幸福と気が付きました。

自然や環境の危機もさし迫っています。瞬間的愉悦と経済的豊かさより、本質的な、安全・安定が重要であり、瑣末なことより、いのちが大事だと考えるようになりました。

#### 災害と人間の知恵

日本列島に住む私達にとって、将来必ず襲う災害にどう対処すべきか大きな課題です。特に今回の津波災害は多くの教訓を与えてくれました。

コンクリート製の防潮堤は各地で越波・破壊され、防潮堤があるから大丈夫と信じていた多くの人々の命が失われました。より高くより頑丈な製防潮堤を造るという発想だけでは次なる「想定外」津波に対応出来ません。

マツの純林からなる防風林は根こそぎ倒されました。「復旧」の名のもとに、マツの純林を再生し、白砂青松を蘇らせることでは今回の貴重な教訓・経験を生かしたとは言えません。多くの人々がその命をもって残してくれた教訓を生かす知恵こそ必要です。

#### いのちを守る森の防潮堤

復興に際し、将来の巨大津波に対応するため、新しいエコロジカルな防潮堤の整備が提案されています=イメージ図④。

この提案は、海岸沿いに高い盛土を築き、その上に深く根を張るタブノキやカシ類からなる多様な森を創り津波のエネルギーを減殺すると共に盛土斜面を崩壊から守ろうとするものです。盛土材料として津波によって発生した膨大な量のガレキを活用します。





=写真④ ガレキはもともと住宅や家財道具であり、人々の深い想いがこもっています。これを莫大な費用と労力を使って焼却するのではなく、森の防潮堤の貴重な材料として活用しようとする知恵なのです。

これは従来のコンクリート製防潮堤と区別するため、「森の防潮堤」と呼ばれています。この構想は当協会の特別顧問宮脇昭先生（横浜国立大学名誉教授、（財）地球環境戦略研究機関国際生態学センター長）によって提案され、東日本大震災復興構想会議が政府に提出した「復興への提言」にも記述されています。

す。

### 3月3日、仙台でシンポジウム開催を予定

当協会ではいのちを守る森の防潮堤プロジェクトを進めるため、震災後ほぼ1年を迎える来年3月3日に仙台の東北福祉大学でシンポジウムを予定しています。「いのちを守る森の防潮堤」推進東北協議会、（財）地球環境戦略研究機関国際生態学センター等と共に、三菱商事の協賛をいただきます。世界注視の中、いのちを守る森の再生と地域経済振興のモデルとなるよう知恵を出し合い、実践していきましょう。会員各位のご参加をお待ちしております。

（理事長 高野 義武）

### □■2011年の植樹事業

レナフォの植樹事業は4月以降12月までに6カ所で行われました。日本財団をはじめ各団体から助成金や苗木の提供をいただき、延べ1800人が参加して13,140本を植えました。詳細は下記の通りです。

#### ＜東禅寺開創400年企画第二回「東禅寺どんぐりの森づくり」植樹祭＞ =4月17日(日)10時～12時

JR品川駅に近い東京都港区の古刹東禅寺の小高い墓園の山頂部に、晴天の下、常緑広葉樹のアラカシやシラカシ、タブノキなど45種類、1000本を植えた。主催は同寺で、レナフォは、特別会員らが準備作業から協力。聖心女子大の学生たちが宮脇昭特別顧問の指導のもと、植樹リーダーを務めた。参加者は、檀徒の皆さんを含めて150人=写真①。NPO法人響が明治神宮のどんぐりから育てたシラカシとアラカシの苗木100本を提供した。



## ＜第3回湘南国際村めぐりの森6,000本植樹＞(レナフォ共催) =5月1日(日)10時～12時

五月晴れの下、神奈川県横須賀市湘南国際村の駐車場から500㍍南東よりの法面2100m<sup>2</sup>に常緑広葉樹を中心に22種類、6200本を植えた=写真①。参加者は650人。主な参加団体は、生涯現役かなざわ会、湘南国際村自治会、NPO法人漢方環境安全対策普及協会、NPO法人GoodDay、ソフィアフィットセラピーカレッジ、JR東日本労組、NPO法人日本育桜会、三本の木、聖マリア小学校、上山口町内会、太平ビルサービス(株)、ボイスカウト葉山、NPO法人響、進和学園

【主 催】協働参加型めぐりの森づくり推進会議  
【特別協賛】三菱商事(株)、エキスパートホールディングス(株)  
【資金助成】イオン財団、セブンイレブン記念財団、(株)音遊  
【資材助成】横浜ゴム(株)、(株)サンライフ(進和学園「いのちの森づくり友の会」基金)、ダスキンメントオール横須賀ステーション



## ＜多摩工森づくり100＞=6月12日(日)10時～12時30分

東京都福生市熊川215の都立多摩工業高校の敷地南東側国道16号線沿いの周縁部491m<sup>2</sup>に29種類、1940本を植えた=写真②。全校生徒と教職員のほか、地元市町ら来賓を含め515人が参加した。宮脇特別顧問の植樹指導を受けて、5クラスがそれぞれの担当区画に分かれて1時間余りをかけて植えた。

【資金助成】日本財団  
【資材助成】NPO 法人響



## ＜震災復興祈念植樹祭＞=8月15日(月)13時～15時

好天の下、長野市大字上ヶ屋の飯綱高原大座法師池湖畔の地区有林内の500m<sup>2</sup>に、ブナやミズナラ、コナラなど落葉広葉樹を中心に14種類、1000本を植えた=写真次頁①。3月の東日本大震災のあと長野県内でも地震が発生、被災地の復興祈念としてレナフォの呼びかけで結成した地元の実行委員会が主催した。参加者は85人。植樹地はカラマツ、アカマツの人工林を間伐したところ。

【主 催】長野ふるさとの森づくり実行委員会  
【資金・資材助成】毎日新聞社、㈱第一設計、エスペック㈱



### <植樹体験&ちびっこワークショップ>=9月17日(土)10時~12時

神奈川県横須賀市湘南国際村の駐車場南東500㍍にある法面で、1026m<sup>2</sup>に22種類、3000本を植えた=写真④。天候に恵まれたが参加者が65人と少なく、午前中に1500本を植えて一般参加者は解散。残りは、レナフォ特別会員や進和学園のスタッフら30人で夕方までかかって植え終えた。

【主 催】協働参加型めぐりの森づくり推進会議

【共 催】レナフォ、認定NPO法人環境リレーションズ研究所



### <第5回レナフォ連携の森植樹祭>=11月6日(日)10時~12時

小雨模様の中、神奈川県横須賀市湘南国際村の駐車場南東500㍍のこれまでの場所から東に300㍍の緩斜面1007m<sup>2</sup>に、22種類、3000本を植えた=写真⑤。宮脇特別顧問の指導で、アフリカや東南アジアからのJICAの研修生を含めて350人が参加した。植樹地の準備工について、宮脇特別顧問から「客土しただけでなく、耕転をしっかりとやるように」と強い指導があった。

【主 催】レナフォ、協働参加型めぐりの森づくり推進会議



## □■長野オリンピックの森検証シンポジウム

長野市では、1998年の長野冬季オリンピック開催に当たって、その基本理念として掲げた「美しく豊かな自然との共存」を実現するため45万本の苗木がオリンピック競技施設の周囲や関連事業の中で植えられ、ふるさとの森づくりが進められました。樹種はブナ、ミズナラ、コナラ、クヌギなどこの土地の潜在自然植生であり、子供たちや市民が集めたドングリを長野市森林組合がポット苗に育てあげ、多種類の苗を混植・密植することで自然林の復元を目指すものです。

自然の森のシステムに従い、植生生態学・植物社会学の科学的知見に沿ったこの方法は宮脇昭（横浜国立大学名誉教授（当時長野県自然保護研究所長）により提唱され、40年以上の間に、国内外1700カ所に4000万本を超える実績を有している自然林の復元方法であります。

長野オリンピック開催から13年を経過した現在、植栽後13～19年経過した森は今どうなっているのか検証し、今後その理念をどのように生かしてゆくべきか考えるため、シンポジウムと現地見学会を企画しました。

### <長野オリンピックの森検証シンポジウム>

日時： 8月14日（日） 13時30分～16時7分

会場： 長野市若里市民文化ホール

参加者数： 220人

#### 時事公演 阿部守一氏（長野県知事）

演題「森を活かし 森に生かされる 私達の豊かな暮らし」

##### 【講演概要】

長野県の森林の過去から現在までの状況紹介。

長野県は今後針葉樹の人工林から針広混交林へ、さらに広葉樹林への誘導を政策として実施していく（長野県森林づくり指針（H23～H32））。

近年中山間地で大きな問題となっている農作物の野生鳥獣被害対策への取り組み。森林税に関する解説と今後の延長方針、見直しの方向およびその内容。

長野県の自然を求めて訪れる人々への森林セラピーの重要性、気候変動対策の一つとして、木質バイオマスエネルギーの活用の方針。

企業のCSRの一環として、森の里親制度など森づくりを通じた社会貢献活動を今後一層推進していくよう促す。



#### 基調講演 宮脇昭氏（横浜国立大学名誉教授、（財）IGES国際生態学センター長）

演題「人類の未来とふるさとの森づくり」

##### 【講演概要】

東日本大震災の復興構想会議から政府に提案された「いのちを守る森の防波堤」構想

（瓦礫を埋めた盛土上に潜在自然植生の森を創り津波のエネルギーを吸収する海岸防災林）の紹介。

根の浅いマツの防風林は津波に倒され、押し流されて防災効果を十分発揮出来なかった

